

光高図書だよりPart II

2017年7月14日発行 光高校図書委員会



第2弾

新着任の先生方にインタビュー！

新着任の先生方に、次の各質問に答えていただきました！

- Q1 感銘を受けた本は？ Q2 好きな作家は？
Q3 今、読んでいる本は？ Q4 今後、読みたい本は？
Q5 “読書”ってどんなもの？ Q6 光高の図書室の印象は？
Q7 光高生にお薦めの本は？

岡本教頭先生(地公)

- A1 『竜馬がゆく』『坂の上の雲』司馬遼太郎／著。『葉っぱのフレディーいのちの旅』レオ・バスカリア／著
A2 一番読んだのは、司馬遼太郎です。
A3 『羊と鋼の森』宮下奈都／著 A4 古今東西の歴史物。
A5 これで仕事をしてきた。(読書しなければやってこれなかった。) A6 よく整理されて、綺麗です。
A7 夏目漱石を読んでください。歯ごたえがあって読書力がつくと思います。私も読み続けたい。

末永教頭先生(定時・体育)

- A1 自己啓発のために最近では実用書やビジネス書を読むことが多く、文学や小説に触れることがなく、感銘を受けていないのが現状です。学生時代にはあったかもしれません。
A2 特にありません。
A3 最近購入した本は、『世界一美味しい煮卵の作り方』です。料理をしようという気はないのですが。
A4 特にありませんが、気ままに書店に行くので、その時の気分で読みたい本を購入し、読むと思います。
A5 職場環境が変わったり、新たに物事を始めようとするときに本を購入し、読むことが多く、自分にとって読書は心の安定や他の人の考えを得るための手段となっているように思います。
A6 多くの書籍が整理されており使い勝手が良い図書館と思います。特に、多くのポップで各種ジャンルの本が紹介されており、本に対する温かみや親近感を覚えます。
A7 最近、自分が読んだ本を紹介します。(実用書ばかりですみません。)
『「学力」の経済学』中室牧子／著 『雑談力が上がる話し方』齋藤 孝／著 『結局、「すぐやる人」がすべてを手に入れる』藤由達藏／著 『道をひらく』松下幸之助／著

関先生(国語)

- A1 『講孟笥記』吉田松陰／著とかでしょうか。
A2 森鷗外(明治末年以降)、芥川龍之介、三島由紀夫。
A3 『山口県の歴史散歩』(山川出版)
A4 光市史、ヨット、硯(赤間石など)に関わる本。
A5 空き時間にしていないと不安になるものでしょうか。
A6 眺めがいい、静か、本は……ちょっと少ないかな……。
A7 教科書(国語に限らず)、中原中也、文学(特に古典)、光市(などのあなたの出身地)や山口県に関わる本。

足立先生(定時・地公)

- A1 『コンスタンティノープルの陥落』塩野七生／著
A2 塩野七生。
A3 『チェーザレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷』塩野七生／著
A4 池井戸 潤作品を読みたいです。
A5 いろいろな世界に連れて行ってくれる特別なものです。私は歴史小説が好きなので、まるでその時代に自分が行ったかのような感覚になれるのが好きです。
A6 とても明るく、興味をひきつけられる図書室です。
A7 好きな作家にもつながるのですが、世界史の歴史小説をおすすめします。授業で学ぶ世界史がもっともっと楽しく感じられるようになると思います。

藤本先生(数学)

- A1 『十二番目の天使』オグ・マンディーノ／著
A2 コナン・ドイル A3 『坊っちゃん』夏目漱石／著
A4 『天平の薨』井上 靖／著 A5 息抜きです。
A6 分野、種類が豊富で、飽きないです。 A7 推理小説。

河野先生(理科)

- A1 『人を動かす高校野球監督の名言』田尻賢誉／著。野球にとどまらず、日常生活にも通じるヒントが満載で、力をもらいました。
A4 これまで本を読む機会は多くありませんでした……。少しずつ、自分に合った本を見つけたいです。
A5 新たな知識や教養、発想や考え方に会う場だと思います。
A6 広い!! 本のバリエーションが豊富! 3階で眺めも良く、開放感あふれる場所だと思います。
A7 壁に直面した時など、克服するための心構えや方法を習得できる本、名言や格言が載っている本は、自分の人生の糧になると思います!

水木先生(理科)

A2 今は藤沢周平。藤沢作品の主人公の多くが、江戸時代の庶民や下級武士です。そのため、親近感がわき、もし江戸時代に生まれていたら、「こういう生活を送っていたのでは」と思わせてくれる作品が多く、読み始めると時間を忘れて読んでいます。

A3 『海賊とよばれた男』 百田尚樹／著。

昨年末、映画化された「海賊とよばれた男」の原作です。出光興産創業者の出光佐三をモデルとした佐三の一生と、大企業に成長するまでの過程が描かれています。徳山製油所(出光)の建設当時の困難(工事の失敗、建設工事保険)に会いながらも、日本最初の海底パイプライン(2800m)のシーバース工事を完成させた話や通常は2年かかると見積もられた工期を、10ヶ月で完了させた逸話はとても興味深く読みました。

読んだ後、すぐに周南市の嵯島にシーバースを見に行きました。

A5 私は大学に入るまでは、読書にはあまり興味がなかったのですが、大学に入り、人並みにいろいろな本を読むようになりました。「ひと」それぞれ価値観は違います。よく言われることですが、読書によって、「いろいろな人の価値観を知る」ことができます。そのことを読書によって知ることは、社会人になったときに役に立つのではないのでしょうか。

A6 とても明るく、リラックスした雰囲気で生徒が利用しやすい図書館。

A7 ①『雑草のはなし―見つけ方、たのしみ方』田中 修／著

②メッセージ

私は生徒と会う4月の最初の授業で、「春の野草」というテーマで校庭を歩きながら、フィールドワークを行います。そのときに使う資料の一つがこの本です。

校庭の片隅で、雑草はひっそりと生きています。名も知らない草も多いのですが、それぞれが子孫を残そうと懸命に生きており、その方法は驚かせるものも多いのです。全部で170種余りの植物の巧みな生き方が紹介されています。(例)オオイヌノフグリの話

岩崎先生(英語)

A1 『ライ麦畑でつかまえて』J.D.サリンジャー／著。16歳の少年ホールデンが嘘や欺瞞だらけの「インチキ」な大人たちに憤慨、失望し名門高校も退学してしまう話。痛々しいほど自分に正直に生きようとする思春期の少年の姿に感銘を受けました。

A4 歴史小説が好きなので、来年度の大河ドラマ「西郷どん」の原作を読みたいと思っています。

A5 生活に「潤い」や「癒やし」を与えてくれる楽しい「娯楽」です。

A6 すみません。行ったことがありません。

A7 恩田 陸さんの『夜のピクニック』(河村かよ子先生に勧められて最近読みました。)高校生が主人公の物語。一昼夜かけて行われるある学校行事の間に、高校生たちが心の葛藤や悩みを乗り越えて友情を深めていく話です。読んだ後にイヤ〜な気持ちになることでうけている「湊かなえ」という作家がいますが、彼女とは正反対に、読後感がとてもさわやかで、友情っていいなーと素直に思えるお話です。

中村佳代先生(英語)

A1 『星の王子さま』サン＝テグジュペリ／著。『こころ』夏目漱石／著。

A3 今、これといって読んでいる本はありませんが、アドラー心理学とかジェームス・アレンの『原因と結果の法則』など手にとって開いたページを読んだりします。

A4 『三国志』や『項羽と劉邦』、『翔ぶが如く』(司馬遼太郎／著)などの歴史小説。

A5 知識を深め、世界を広げてくれるもの。

A6 景色が良く、窓際のテーブルはカフェの雰囲気がある。

A7 これといっておすすめする本は具体的に挙げられないが、本屋、図書館に行って、自分の興味のある本、目に止まった本を手にとって読むことをおすすめします。きっとすばらしい本との出会いがあります。

磯部事務長先生(事務)

A2 乃南アサ。主にサスペンス小説。稀勢の里に「キセノン」という愛称を付けた。

A3 現在、読んでいません。

A5 脳トレ。

A6 明るくて良い雰囲気。

播元先生(事務)

A1 『ふたりのイーダ』松谷みよ子／著。

A2 松谷みよ子、宮沢賢治 他。

A3 『チャンドラー傑作集』レイモンド・チャンドラー／著。

A4 『苦海浄土』石牟礼道子／著 他。

A5 思索を深め、人間性を高めるものだと思います。

A6 こじんまりしていて、びっくりしましたが、落ち着いて読書や勉強のできる良い図書室です。

A7 『バンセ』パスカル／著。

☆2回にわたって新着任の先生方の読書体験を掲載しましたが、先生方の「読書」への思いがよく分かりました。ここに紹介していただいた本の多くが図書室にあります。是非、読んでみてください。



Thank You